3人に1人がカナヅチ、

プール不足に泣く

まず先生皆泳を

県内の学童・生徒

県教委　シーズンひかえ追放運動

水のシーズンを迎えたが、本県の小・中学校の生徒は泳げないものが多く、全国平均を下回っている。本県が国で改善の少ないからの反面、このため県教委はプール設置を市町村に呼びかけるとともに、当初のように水泳講習会を開いてカナヅチ生徒追放にとり組む計画だが、根本的にはプール設置を急ぐ必要に迫られている。

県教委が所管の県内小・中学校の生徒は、学校の各学年一クラスを抽出しとる。小学生四万三千五百八、中学生三万三千八名対象になっている。調査をまとめた結果によると、泳ぎは小学生の二八・六％、中学生の二三・一％はカナヅチ。学年は高くなるにつれて生徒はカナヅチ・一四％、小学校では約五％（四七人）、中学校は三％・約が泳げない。このカナヅチ率が、男女とも全国平均より約一・一％高い。

地域別にみると、小学生は高原地帯に多く、二千五百以上の学校のうち、プール設置校は三百四十一校、三分の一強。中学校では、二千五百以上の学校のうち、プール設置校は三百四十一校、三分の一強。

しかしながら、地域別に見ても、プール設置は、プールが設置されていない部分では泳げないものが小学二年生でも二〇％前後、高学年（男子）では、三〇％前後、高学年（男子）では、三〇％前後、高学年（男子）では、三